



浜松観光ボランティアガイドの会

県民の日記念イベント「家康の散歩道新スポットを歩く」

8月28日(日)当会主催の県民の日ウオークが実施されました。雨上がりの爽やかな朝で、募集人数を超える応募でしたが、最終的に42名の参加となり、夏休みも終盤、ファミリーでの参加が目立ちました。8時30分より集合場所の浜松城公園を順次数名でスタート。当会25名の応援者は、先輩と入会間もない新人とでのペアで、双方にとっていい経験になったようです。

今回は「家康の散歩道」に追加された新スポット、浜松城出丸跡・浜松秋葉神社・金山神社・松尾(まつのお)神社・遠江分器稻荷神社の5カ所を巡るイベントでしたが、まずは浜松城公園より、鉄門跡・鎧掛松・馬冷やし跡を通して最初のスポットである浜松城出丸跡へ進みました。家康が今川氏の人質だった頃からの側近である鳥居元忠の屋敷跡でもあるこちらは今は浜松中央図書館となっていますが、8月6日にリニューアルオープンされたばかりです。こちらの駐車場からは天守閣が真正面に望め、ひととき高いこの場所からは城内の様子が手に取るように見えたことでしょう。



織田利三郎翁石塔

次は三組町にある浜松秋葉神社へ。火防(ひぶせ)で有名ですが、浜松城の裏鬼門にあたり家康の長女亀姫が嫁いだ奥平信昌の屋敷もかつてありました。途中で半僧坊・浜松別院の正福寺がありますが、織田利三郎翁の石塔がありました。へちま・トウガラシ・落花生・ショウガ等の特殊な農産物の生産・奨励に尽力、明治33年のパリ万博に出品した遠州産へちまが大好評で輸出も手掛けたそうです。参加者からは「いつも車で通っているこの場所にこんな歴史が潜んでいたとは」と感嘆の声も上がっていました。

秋葉神社からは上ったり下ったり、かなりの高低差がありましたが、普段通らない路地裏も楽しく、旧市民会館裏手の石垣も初めて見るところと、なかなか味わえない企画に喜びの感想もいただきました。次の金山神社は鍛冶町の飛地にあり、家康が甲斐から連れてきた鍛冶師とその一団の説明を聞き、令和3年に中門と本殿が改築されたばかりの

松尾神社に向かいました。蒲神明宮の好意で譲り受けた伊勢神宮の遷宮材で見事に生まれ変わったこちらは、浜松最古の社で、正式な神紋は「子持ち二葉葵」、狛犬は江戸時代からあり市内で3番目に古いとのことでした。最後の訪問先の遠江分器稻荷神社までは少し距離があるので本陣跡を巡りました。浜松宿には6軒もの本陣があり、ザザシティの西北角にあった梅谷本陣は国学者賀茂真淵の養家先で、本居宣長の師が賀茂真淵であったという事実にはびっくりされた方も多くみえたようでした。



松尾神社鳥居にて



梅谷本陣跡にて



真新しい分器稻荷神社看板

華やかなオレンジに紺、遠江分器稻荷神社の看板が見えてきました。徳川四天王の一人である本多忠勝屋敷跡でもあるこちらでは、この日特別に特製の注染染めの「一心入魂てぬぐい」が販売されていました。こちらは引間宿の最南端になるそうで、鳥居入り口は浜松八幡宮への参道につながっていたそうです。忠勝ファンの子がみえ早速親におねだりして買い求めていました。引間宿に浜松宿、東海道ど真ん中、賑わった浜松、どう描かれるのか、奇抜なてぬぐいのデザインにNHK大河ドラマ「どうする家康」放映近しを感じました。

家康公生誕の地から「おかざき観光ガイドの会」を迎えて

8月25日(木)「おかざき観光ガイドの会」の会員22名が研修旅行で来浜しました。当会と同じボランティアガイド団体であり、NHK大河ドラマ「どうする家康」関連の情報交換も希望されていたので、当会からは鈴木利雄会長、大見・鈴木猛二副会長と事務局長の春日が案内しました。

9時20分、到着前に降った通り雨が上がった中、最初に引間城跡・元城町東照宮に向かいました。東照宮では家康公に関する色々な質問が出て、さすがは家康公の生誕の地・岡崎のガイドの方々であると感心しました。元目口では三方ヶ原の戦いの際の家康公の行動についての質問も多くありました。



若き日の家康像の前で参加者全員と記念撮影

その後、浜松城に向かいました。南エントランスから見る浜松城天守閣は改修工事のため全面カバーされていて見る事ができずに残念でした。岡崎城も同様に現在改修中

とのことで、来年の大河ドラマの準備が着々と進んでいるようです。1983年の大河ドラマ・徳川家康(滝田栄主演)の時には、岡崎の街が見違えるほどきれいになったとのこと。本丸の若き日の家康像の前で集合写真を撮り、富士見櫓経由で天守閣に入場しました。22名のうち有料入場者は5名でしたので、会員年齢構成は当会と同様のような感じです。真夏の天守閣内は蒸し風呂のようで、出てから天守門で心地良い風を受けて涼んでいました。

駐車場にもどり、バスで犀ヶ崖資料館に向かいました。資料館ではDVDを見た後に公園内を案内しました。参加者の中に本多忠真の子孫がいて、「本多肥後守忠真の碑」の前で「本多忠真の墓が不明で、探している」とのことでした。この後、青瀧寺を見学して帰路につくとのことでした。

短い時間でしたが今後も相互交流を深めたいと思いました。

西ブロック 春日康治

研修部事前現地研修「街ひがしを歩く史跡ウォーク」

8月2日(火)浜松駅北口広場(キタラ)に13時30分集合した研修部の皆さんはご意見番の杉本さんを筆頭になかなかのベテラン揃い。聞けば午前中の研修部会で、引き続きの炎天下ウォークとなる下見[11月15日(火)実施予定の研修会の事前現地研修]の断行を決定したとか。使命感に燃える面々に早速感服する次第でした。

行程はまず駅を南側に突き抜けて駅南大通りへ。ここは第二次大戦中「防空道路」と呼ばれ当時珍しい幅広の直線道路で、避難しやすく、半面敵機から狙われやすく、多くの死傷者が出た場所でもあるそうです。

永代橋で南へ折れ、小倉製鋼と住友が合併してできた住倉工業(株)跡地を望みます。こちらは戦中戦後は浅野重工業で艦砲射撃の標的となったそうです。次に新橋を渡り中島町内の小山みい婚家跡へ向かいます。小山みいは農家の副業でしかなかった綿織業を専門の産業にそだてた人物です。この後小山家の墓があり相生小学校開校の地でもある龍島院を参拝。東進して浜松最古の寺・頭陀寺へお参りしました。広い寺内の片隅に役行者像があり、山伏→葛城山→大和・柳生の里、と隣接する松下家の娘おりんが柳生家に嫁す所縁推理で話が盛り上がりました。さらに東の天白社には松下家に奉公した少年秀吉が、鎌を研ぎ試し切りした片葉の葦伝説が残る鎌研池(かまとぎいけ)があります。ここで進路を反転し代々浜松まつりの御殿屋台製作に携わっている名塚町の小池工務店へ。その後東部協働センターで休憩の後、木樽熟成のソースを製造している鳥居食品、さらに市場橋を西に進み諏訪橋を渡り浜松駅で解散となりました。じりじりと照りつける日差しを受け続けての下見でしたが、11月の研修本番はこの日差しを「心地よい」と感じるようになることでしょう。



頭陀寺を参拝

広報部 前原福子(西ブロック)

会員の交流広場

北条氏ゆかりの地、伊豆の国市を訪ねて

前日に伊豆伊東温泉で寛いだ後にどうしても訪れたかった北条氏ゆかりの地、伊豆の国市に立ち寄りしました。丁度NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」も、頼朝亡き後の御家人たちが生き残りをかけいよいよ佳境に入ってくるのですが、ここ伊豆の国市はその御家人サバイバルレースを勝ち抜けた北条氏一族の史跡が豊富で魅力的な地でした。

まず訪れた大河ドラマ館は小栗旬他の登場人物たちや当時の武具の紹介DVDが結構興味深く、ほかにも北条義時や八重姫の衣装、北条宗時の甲冑も展示されていました。面白かったのは頼朝や義時が付けていた烏帽子をかぶって写真を撮ってもらうというコーナーで長蛇の列が出来ていました。記念に家内とのツーショットを撮ってもらいました。

次に訪れたのは北条時政が頼朝の奥州藤原氏討伐の戦勝を祈願して建立した願成就院です。何といっても素晴らしいのは鎌倉時代を代表する仏師、運慶作の「阿弥陀如来坐像」「毘沙門天立像」「不動明王立像」など全部で5体もの国宝に指定されている仏像が本堂に祀られていること。(丁度ドラマでも第21話で運慶が登場し放映されていました)さらに境内には北条時政とその妻の御墓がありました。史料によると当時の願成就院は時政以降も二代義時、三代泰時と三代の執権が堂塔を造営し、奥州藤原氏の毛越寺を模した伽藍構成は北条氏の繁栄ぶりを天下に知らしめた威容だったようです。



北条義時夫妻の墓

そして次に北条義時建立の北條寺を拝観しました。ここには当時としてはとてもユニークと言ってもいい片足を踏み下げる半跏のお姿の中国宋時代の仏像「観世音菩薩坐像」と、北条政子が寄進したと伝えられている「牡丹鳥獸文繡帳」が目を引きました。本堂を出て裏手の約100段の階段を昇って行くと北条義時とその妻の御墓がありました。義時が江間の小四郎と称されていたように、この生まれ育った江間を見下ろせる地に墓所があるのも頷ける気がしました。

最後に訪れたのは北条義時の館があったとされる江間の運動公園です。館跡を偲ぶものは残念ながら何もありませんでしたが、源氏三代の後を継いだ北条氏の成り立ちと発展を偲べる伊豆の国市は上記のほかにも史跡も豊富で実に魅力満点の地でした。皆様も是非一度訪れてください。

西ブロック 谷 晃

会員の交流広場

遠い日の浜松まつりの思い出

私の子供の頃の浜松まつりは、5月1日から5日まで5日間ありました。小学6年生の時、私はお囃子隊の一員となりくじ引きで鼓担当になりました。その夜浜松市の中心地での屋台の集結を終えて自分達の町内へ屋台は向かっていました。いよいよ町が近づいてくるとお囃子にも力が入り、音も大きく聞こえます。屋台はゆっくり進んでいます。すると「お囃子やめー」と大きな声が響きわたりました。今度は「屋台の灯りを消せー」と叫んでいます。屋台は音も無く暗くなりました。それでも屋台はゆっくり進んでいます。ギッシ ギッシ ゴトリ ゴトリ。どこからも声が聞こえません。浴道に立ち並ぶ人々もじっとしています。

前方に家中の灯りを付けて玄関先で両手を振ったりお辞儀をしているお婆さんの姿が見えました。「ありがとう。ありがとう」と叫んでいるようです。お囃子の手を止めていた仲間のひとりが「あの家のお爺さんが最近亡くなったそうよ。お婆さん、ひとりになっちゃったんだって。お母さんが言ったわ」とささやきました。「ふーん、そうなんだ」とお囃子をどめたのも屋台の灯りを消したのもその意図が分かったような気がしました。「お囃子始めー」「屋台の灯りをつけろー」と大きな声がまた響きました。

私たちは大きく息を吸ってお囃子の続きを始めました。屋台の灯りもついてギッシ ギッシ ゴトリ ゴトリ。屋台の後部の大太鼓担当の子が「あっ、あのお婆さん、泣いているよ。泣いているよ。泣いている」と小声で言いました。今誰もがやさしい空気につつまれていました。人々の話し声も聞こえ始めました。

ギッシ ギッシ ゴトリ ゴトリ。遠い日の浜松祭りの夜の出来事でした。

東ブロック 中野典子

北ブロック活動紹介「三方ヶ原合戦の史跡紹介」ビデオ制作

毎月定例会を行なっている北部協働センターの所長から、10月22日(土)、23日(日)の秋の北部デジタル協働センターまつり用に浜松観光ボランティアガイドの会の紹介ビデオを撮らせてほしいという依頼があり、おもしろそうなので引き受けました。



葵神社の前で会の紹介と神社の説明

てつけと決まりました。会の紹介と東照宮葵神社の説明の後はいったん解散し、午後には案内人となった人と有志、ビデオ班と所長も揃って三方原墓苑の「三方ヶ原の戦い」の石碑⇒根洗松⇒本乗寺⇒小豆餅神社⇒犀ヶ崖資料館に絞って移動・紹介し、時には案内人と現地で落ち合いながら2時間程度で終了しました。

「特にガイドの会の皆さんには来年のNHK大河ドラマ『どうする家康』に関連して主に地域のゆかりの史跡や話を紹介して欲しい」ということでしたので、早速手元にある「三方ヶ原の戦い」に関する史跡や伝説を書き出したものを元に打ち合わせを行い、所長の依頼に沿ったものに絞り込みをしていきました。

まず会の紹介は、定例会の終了後に全員でベストを着て行うこと、場所はセンターの隣にある徳川ゆかりの東照宮葵神社がうつ



三方ヶ原古戦場説明のビデオ取り風景



本乗寺の説明のビデオ取り風景

なかなかスムーズに話せない場面があっても「それがいいだよ」という所長の一言で続行し、あとは編集者の腕にお任せです。実際に三方原台地のどこで合戦が行われたかの場所は確定されていないため、根洗松あたりと東大山あたりの2カ所を紹介して、地元の人にとってもユニークな内容になったのではないかと考えています。

紙面の都合で詳細の報告ができませんが、DVDが完成したら犀ヶ崖資料館に置いて、皆さんにも見ていただけたらと思います。

北ブロック 田村勇次

8月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

25日	木	おかざき観光ガイドの会	22名
		袋井南コミュニティセンター	17名
29日	月	(株)ビーエーシー	4名

《犀ヶ崖資料館》

23日	火	しずおか健康長寿財団	3名
25日	木	おかざき観光ガイドの会	22名
		袋井南コミュニティセンター	17名

《浜松まつり会館》

団体ガイド活動はありません

はままつ案内人会報 242号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)
TEL & FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地